"Performance" Through Chemistry

2023年3月期　第2四半期
決算説明資料

三洋化成
代表取締役社長　樋口　章憲

コード：4471

Sanyo Chemical

＜注意事項＞

この資料に記載している金額は表示単位未満を切り捨てで、その他、比率等は表示単位未満を四捨五入しております。

＜免責事項＞

この資料には、2022年11月18日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測等が含まれています。
世界経済・競合状況・為替の変動・原料価格の動向等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

三洋化成工業株式会社
経営企画本部　広報部
E-mail：pr-group@sanyo-chemical.group

会社概要

創　　立：1949（昭和24）年11月1日

本　　社：京都市東山区

資 本 金：13,051百万円

国内支社・営業所：東京、大阪、名古屋、広島、福岡

国内工場：名古屋、衣浦、鹿島、京都、川崎（サンケミカル）

従業員数：2,123名（連結）[2022年9月30日現在]

事業内容：約3,000種のパフォーマンス・ケミカルス（機能化学品）の製造・販売

三洋化成グループ

Sanyo Chemical

Sanyo Chemical 三洋化成グループ

●連結子会社 ○持分法適用会社

国内

●SDPグローバル（株）　●サンアプロ（株）　○（株）サン・ペトロケミカル
●サンノプコ（株）　●サンケミカル（株）　○APB（株）

海外

●三洋化成精細化学品（南通）有限公司　●三大雅精細化学品（南通）有限公司
●三洋化成（上海）貿易有限公司

●韓国三洋化成（株）

●Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.

●Sanyo Chemical America Incorporated
●Sanyo Chemical Texas Industries, LLC　○Sunrise Chemical LLC

●SDP GLOBAL (MALAYSIA) SDN.BHD.

物流・サービス

●三洋化成ロジスティクス（株）　○塩浜ケミカル倉庫（株）

その他の子会社・関連会社：

台湾三洋化成股份有限公司　韓国三洋化成製造（株）　San Nopco (Korea) Limited
San Nopco (Shanghai) Trading Co., Ltd.　DaXiang International Trading (Shanghai) Co., Ltd.

国内生産拠点

京都工場・本社・研究所
（東山区、約2.6万m²）

鹿島工場
（茨城県神栖市、約13.0万m²）

名古屋工場
（愛知県東海市、約10.0万m²）

衣浦工場
（愛知県半田市、約14.0万m²）

サンケミカル　川崎工場
（神奈川県川崎市、約1.1万m²）

海外生産拠点

三洋化成精細化学品（南通）有限公司

三大雅精細化学品（南通）有限公司

韓国三洋化成製造株式会社

SDP GLOBAL(MALAYSIA)SDN.BHD.

Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.

Sanyo Chemical Texas Industries, LLC

海外営業拠点

三洋化成(上海)貿易有限公司
San Nopco (Shanghai) Trading Co., Ltd.
DaXiang International Trading (Shanghai) Co., Ltd.

韓国三洋化成株式会社
San Nopco (Korea) Limited

Sanyo Chemical America Inc.

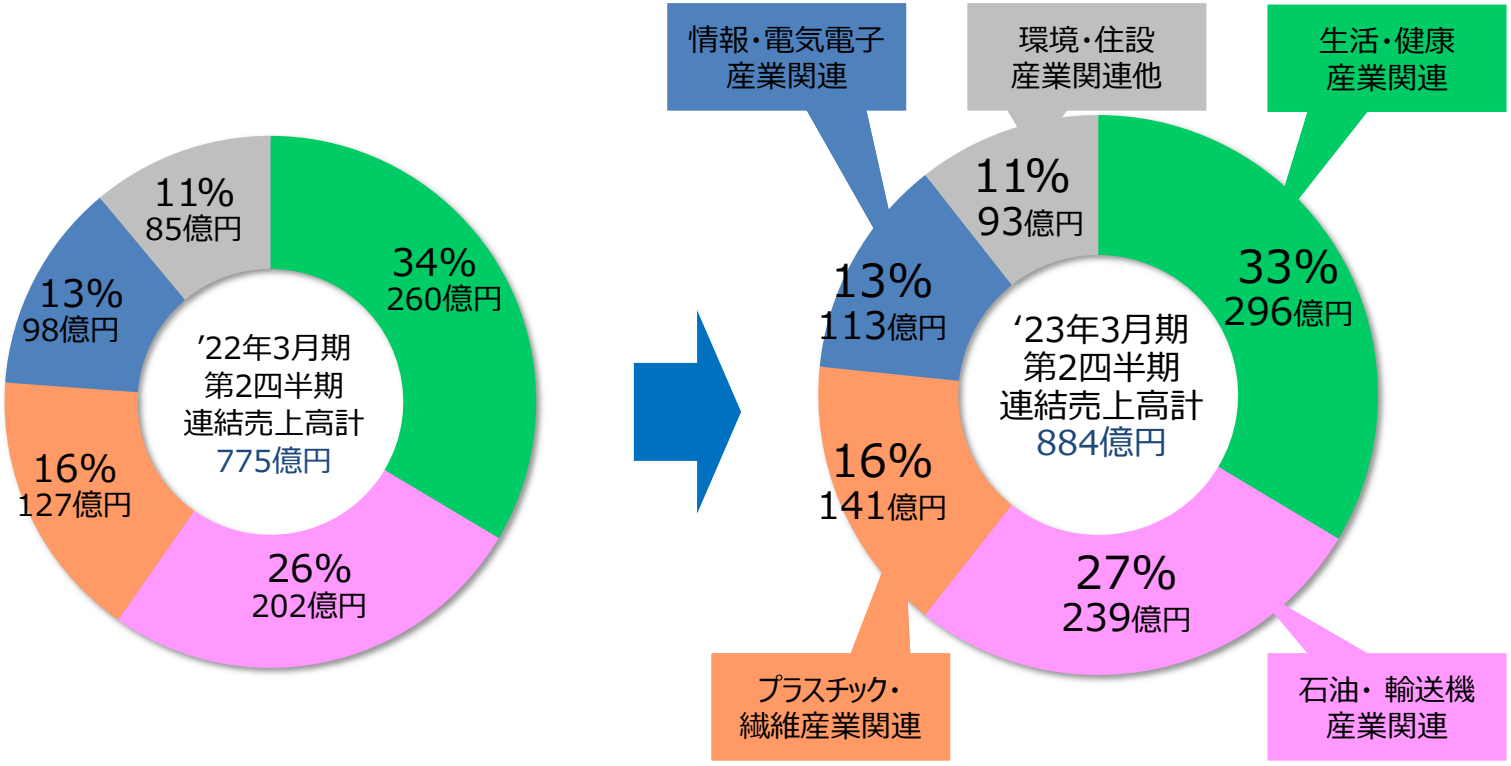
台湾三洋化成股份有限公司

Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.

産業分野別主要製品

大分類	中分類	主要製品
生活・健康産業関連	生活産業関連	洗剤・洗浄剤用界面活性剤、ヘアケア製品用界面活性剤、製紙用薬剤
	健康産業関連	高吸水性樹脂（SAP）、医薬品原料、殺菌消毒剤、外科用止血材、EIA（酵素免疫測定法）用臨床検査薬、人工腎臓用ポッティング材
石油・輸送機産業関連		自動車内装表皮材用ウレタンビーズ（TUB）、ポリウレタンフォーム用原料（PPG）、潤滑油添加剤、燃料油添加剤、水溶性切削油、非ハロゲン系洗浄剤、合成潤滑油ベース、デザインモデル製作用盛り付け樹脂、自動車塗料用樹脂
プラスチック・繊維産業関連	プラスチック産業関連	永久帯電防止剤、顔料分散剤、樹脂改質剤、塗料用樹脂、消泡剤、ポリウレタンエラストマー原料、モデル製作用合成木材
	繊維産業関連	繊維製造用薬剤、炭素繊維用薬剤、ガラス繊維用薬剤、人工皮革・合成皮革用ウレタン樹脂
情報・電気電子産業関連	情報産業関連	重合トナー中間体ポリエステルビーズ（PEB）、トナーバインダー
	電気電子産業関連	アルミ電解コンデンサ用電解液、電子材料用粘着剤、電子部品製造工程用薬剤、UV・EB硬化樹脂
環境・住設産業関連他		廃水処理用高分子凝集剤、カチオンモノマー、家具・断熱材用PPG、泥水用薬剤、反応性ホットメルト接着剤、建築シーラント用原料、セメント用薬剤

連結産業分野別売上高構成



2023年3月期第2四半期業績

（億円，%）

連 結	’22年3月期 第2四半期	’23年3月期 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	775.1	884.3	109.2	14
営業利益	59.1	39.3	▲19.8	▲34
経常利益	68.6	73.6	5.0	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	44.1	47.1	3.0	7
包括利益	42.4	63.2	20.8	49

業績予想の修正（9/29）について

自動車産業向け販売不振などによる販売数量減少および原油価格高騰に対する製品価格改定の遅れにより
業績予想を修正いたしました。

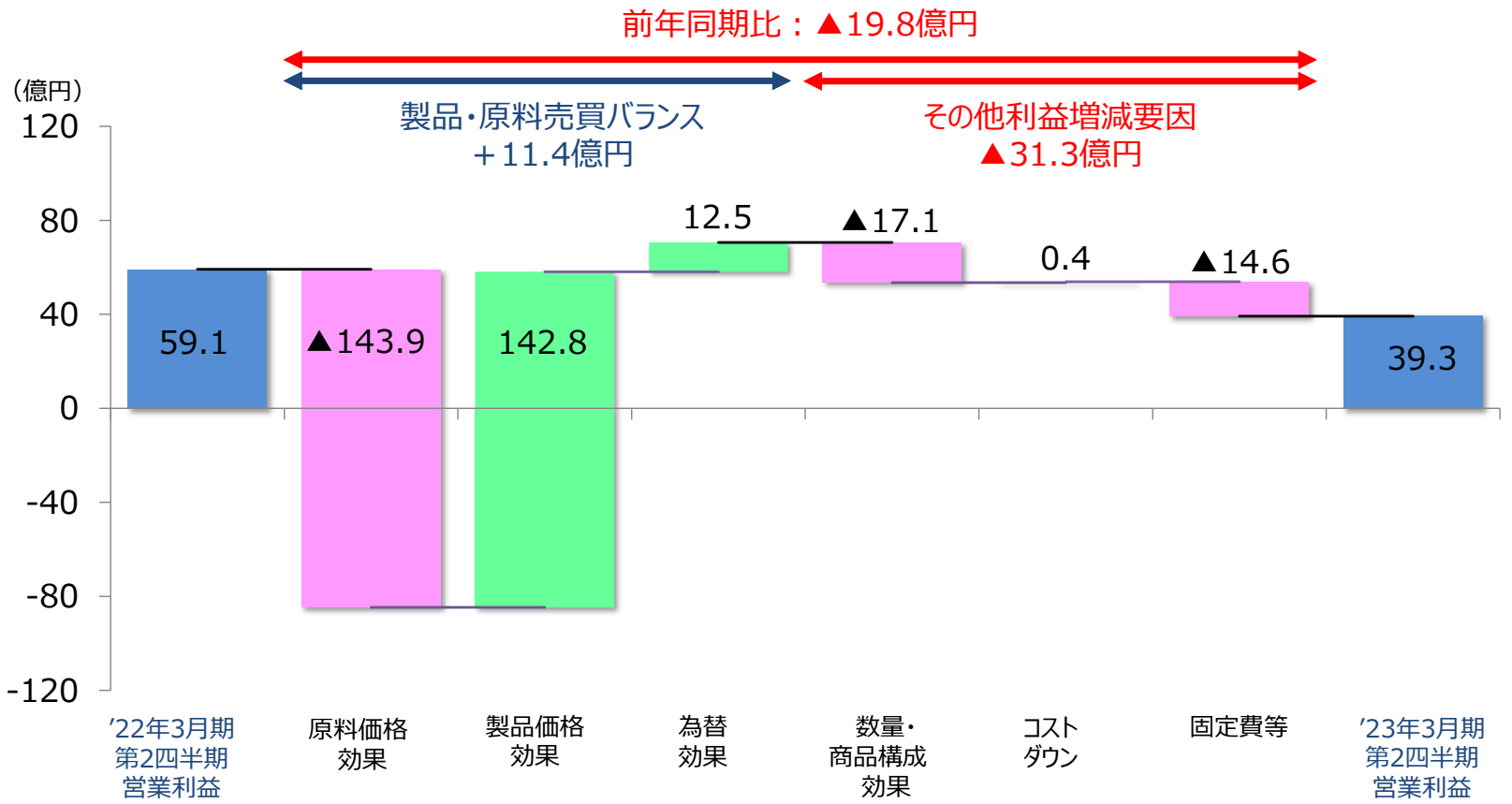
＜業績予想の前提条件＞

国産ナフサ価格：72千円／kl、為替レート：140円／ドル

（億円）

連 結	期初予想		9/29修正予想		増減額	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	985	2,060	890	1,840	▲95	▲220
営業利益	55	125	40	110	▲15	▲15
経常利益	57	130	62	135	5	5
親会社株主に帰属する当期純利益	37	85	42	90	5	5
1株当たり当期純利益	167円73銭	385円32銭	190円34銭	407円93銭	―	―

連結営業利益の前年同期比増減要因



連結純利益の前年同期比増減要因

（億円）

	’22年3月期 第2四半期	’23年3月期 第2四半期	増減額
営業利益	59.1	39.3	▲19.8
持分法投資損益	3.8	4.8	1.0
為替差損益	0.9	26.2	25.2
その他営業外損益	4.6	3.2	▲1.4
経常利益	68.6	73.6	5.0
固定資産売却損益、除却損	▲4.5	▲5.9	▲1.3
その他の特別損益	0.2	▲0.9	▲1.1
税金等調整前四半期純利益	64.3	66.8	2.5
法人税等	▲17.9	▲16.8	1.1
非支配株主に帰属する四半期純利益	▲2.1	▲2.8	▲0.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	44.1	47.1	3.0

連結貸借対照表

（億円）

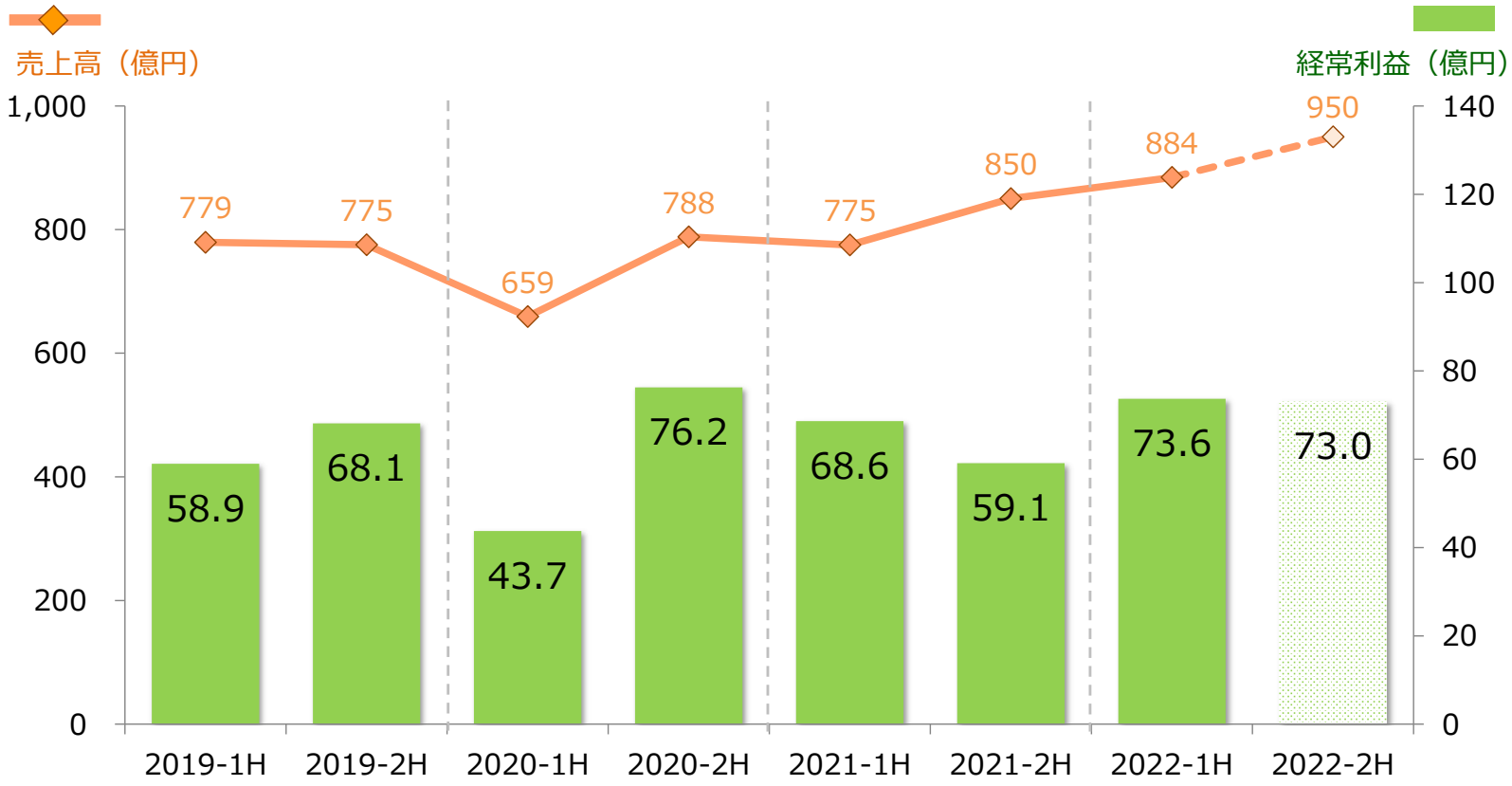
	2022年3月31日	2022年9月30日	増減額	主な増減要因
流動資産	937	1,015	77	現金及び預金（▲10）、受取手形及び売掛金･電子記録債権（21）、商品及び製品（42）
固定資産	1,064	1,097	32	
資産合計	2,001	2,112	110	
流動負債	479	549	69	買掛金･電子記録債務（67）
固定負債	52	47	▲5	
負債合計	531	596	64	
株主資本	1,302	1,332	30	四半期純利益（47）、配当金支払（▲18）
その他包括利益	142	155	13	為替換算調整勘定（11）
非支配株主持分	25	27	2	
純資産合計	1,470	1,516	45	
負債･純資産合計	2,001	2,112	110	

連結キャッシュフロー計算書

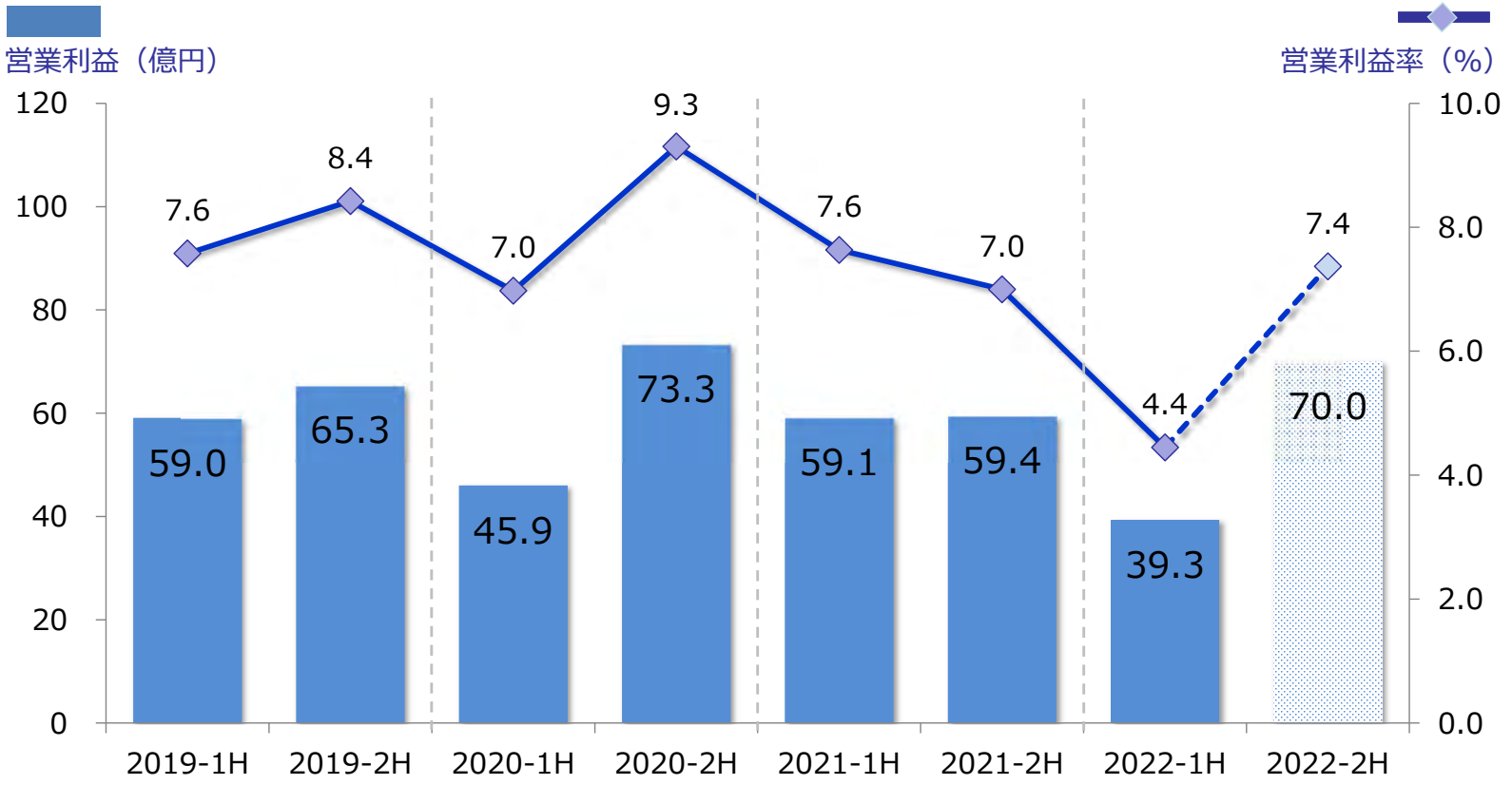
（億円）

	’22年3月期 第2四半期	’23年3月期 第2四半期	増減額	特記事項
営業活動CF	68.3	66.6	▲1.6	
税金等調整前純利益	64.3	66.8	2.5	
減価償却費	47.5	50.2	2.6	
持分法投資損益	▲3.8	▲4.8	▲1.0	
運転資金の増減	▲16.7	▲8.3	8.3	
法人税等	▲14.8	▲23.4	▲8.5	
その他	▲8.1	▲13.7	▲5.6	
投資活動CF	▲55.8	▲64.5	▲8.7	固定資産の取得 ’21/1H：▲43.2 ’22/1H：▲48.6
フリーCF	12.5	2.0	▲10.4	
財務活動CF	▲34.5	▲21.5	12.9	借入・返済 ’21/1H：▲14.0 ’22/1H：▲0.9
現金及び現金同等物に係る換算差額	1.1	5.2	4.1	
現金及び現金同等物の増減額	▲20.8	▲14.2	6.6	
現金及び現金同等物の期首残高	236.4	181.7	▲54.7	
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	－	3.3	3.3	
現金及び現金同等物の期末残高	215.6	170.8	▲44.7	

連結業績の推移（半期）


売上高（億円）
経常利益（億円）
1,000
800
600
400
200
0
140
120
100
80
60
40
20
0
779
775
659
788
775
850
884
950
58.9
68.1
43.7
76.2
68.6
59.1
73.6
73.0
2019-1H
2019-2H
2020-1H
2020-2H
2021-1H
2021-2H
2022-1H
2022-2H

連結営業利益（同率）の推移（半期）

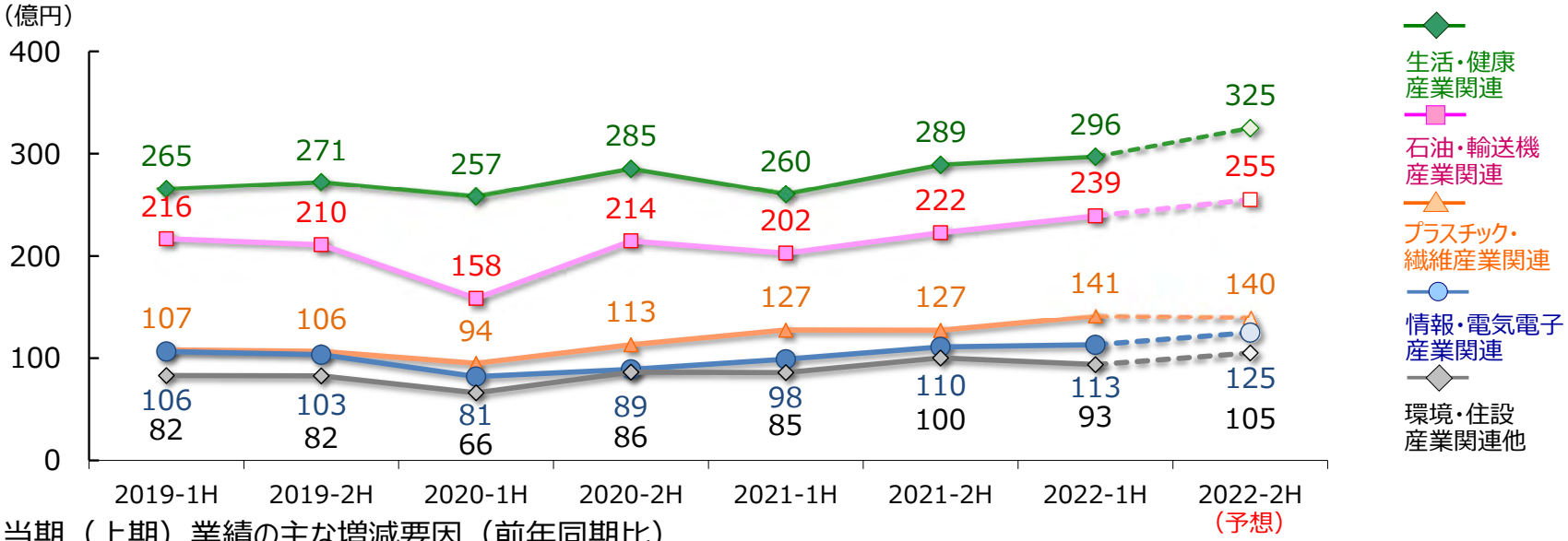


連結産業分野別業績

（億円）

産業分野	売上高			営業利益		
	'22年3月期 第2四半期	'23年3月期 第2四半期	増減額	'22年3月期 第2四半期	'23年3月期 第2四半期	増減額
生活・健康産業関連	260.1	296.9	36.8	6.5	4.5	▲2.0
生活産業関連	68.6	73.4	4.8			
健康産業関連	191.5	223.5	31.9			
石油・輸送機産業関連	202.7	239.1	36.3	20.5	13.2	▲7.2
プラスチック・繊維産業関連	127.4	141.4	13.9	20.0	14.0	▲5.9
プラスチック産業関連	93.0	99.6	6.5			
繊維産業関連	34.3	41.8	7.4			
情報・電気電子産業関連	98.9	113.0	14.1	11.6	8.8	▲2.8
情報産業関連	55.1	64.1	9.0			
電気電子産業関連	43.8	48.9	5.1			
環境・住設産業関連他	85.8	93.7	7.8	7.7	6.4	▲1.2
新規事業に係る研究開発費				▲7.3	▲7.7	▲0.3
合計	775.1	884.3	109.2	59.1	39.3	▲19.8

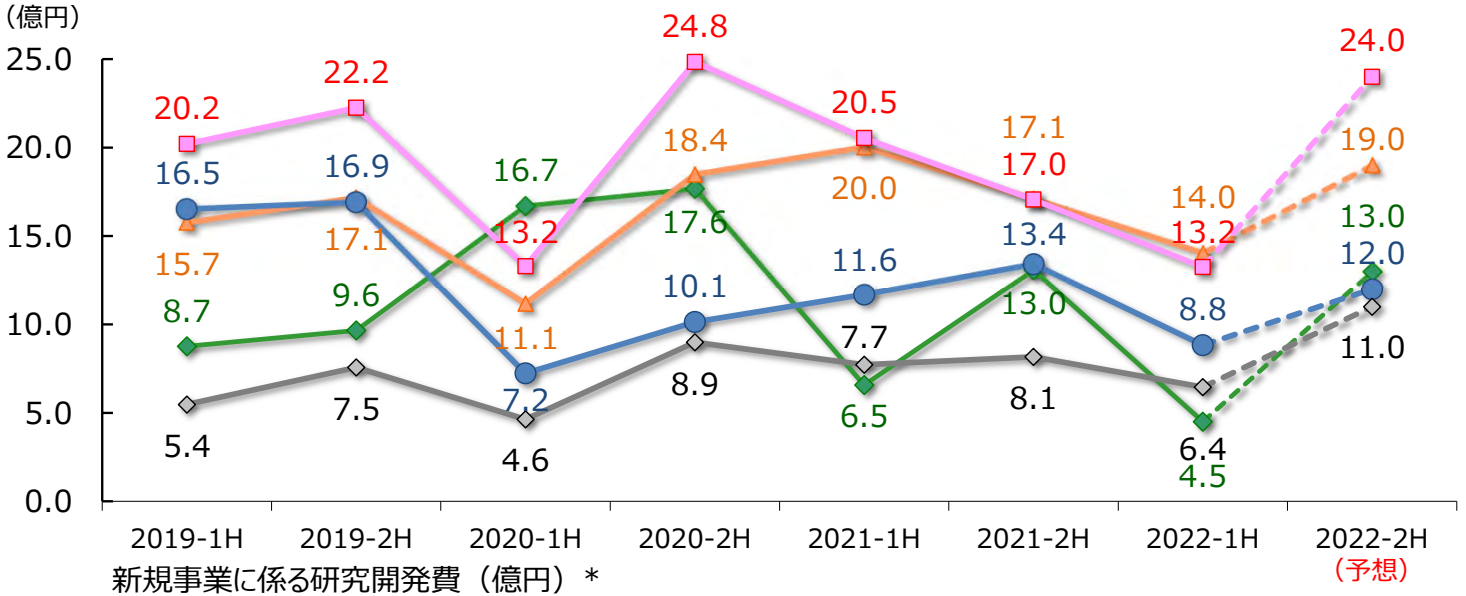
連結産業分野別売上高の推移（半期）



当期（上期）業績の主な増減要因（前年同期比）

生活・健康	：PEGが中国ロックダウンの影響で需要減少したものの、ヘアケア製品用界面活性剤が売り上げを伸ばし、製紙関連薬剤も堅調。 SAPは主に中国市場で落ち込んだものの、原料価格高騰による価格改定により売上高は増加。
石油・輸送機	：PPG、TUB、潤滑油添加剤が自動車減産により需要減少する一方、原料価格高騰による価格改定により売上高は増加。
プラスチック・繊維	：永久帯電防止剤は低調。塗料コーティング用薬剤・添加剤が海外向けに売り上げを伸ばし好調に推移。 炭素繊維集束剤が順調。合成皮革・弾性繊維用ウレタン樹脂の販売も好調に推移。
情報・電気電子	：コロナ禍で落ち込んだオフィス印刷需要が回復し、PEB、トナーバインダーの販売が好調に推移。半導体用レジスト原料の好需要が一段落し減速傾向。アルミ電解コンデンサ用電解液の需要が大幅に増加。
環境・住設、他	：海外向け高分子凝集剤用カチオンモノマーが売り上げを伸ばした。PPGは巣ごもり需要の一巡で横ばい。

連結産業分野別営業利益の推移（半期）

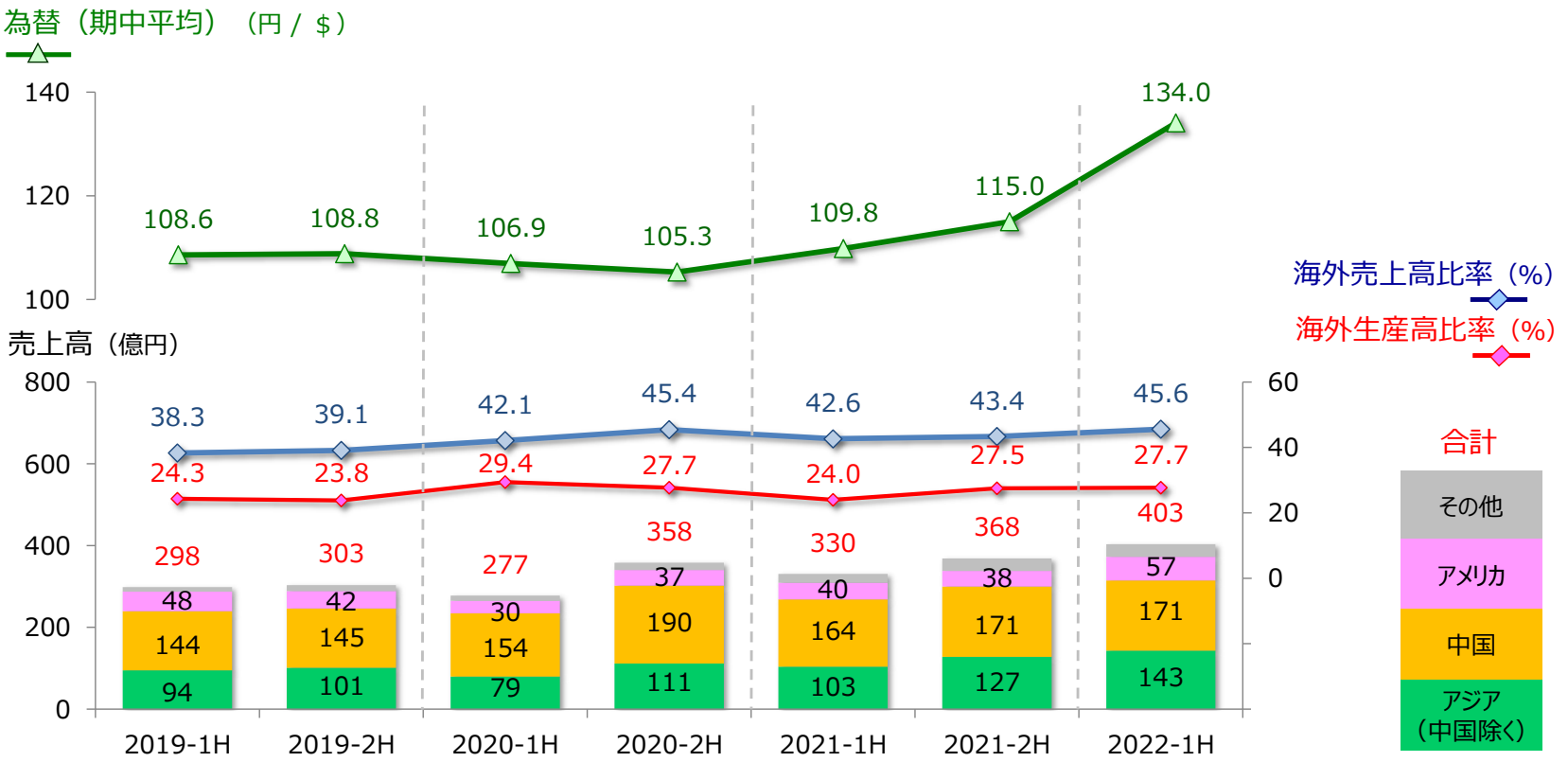


新規事業に係る研究開発費（億円）＊

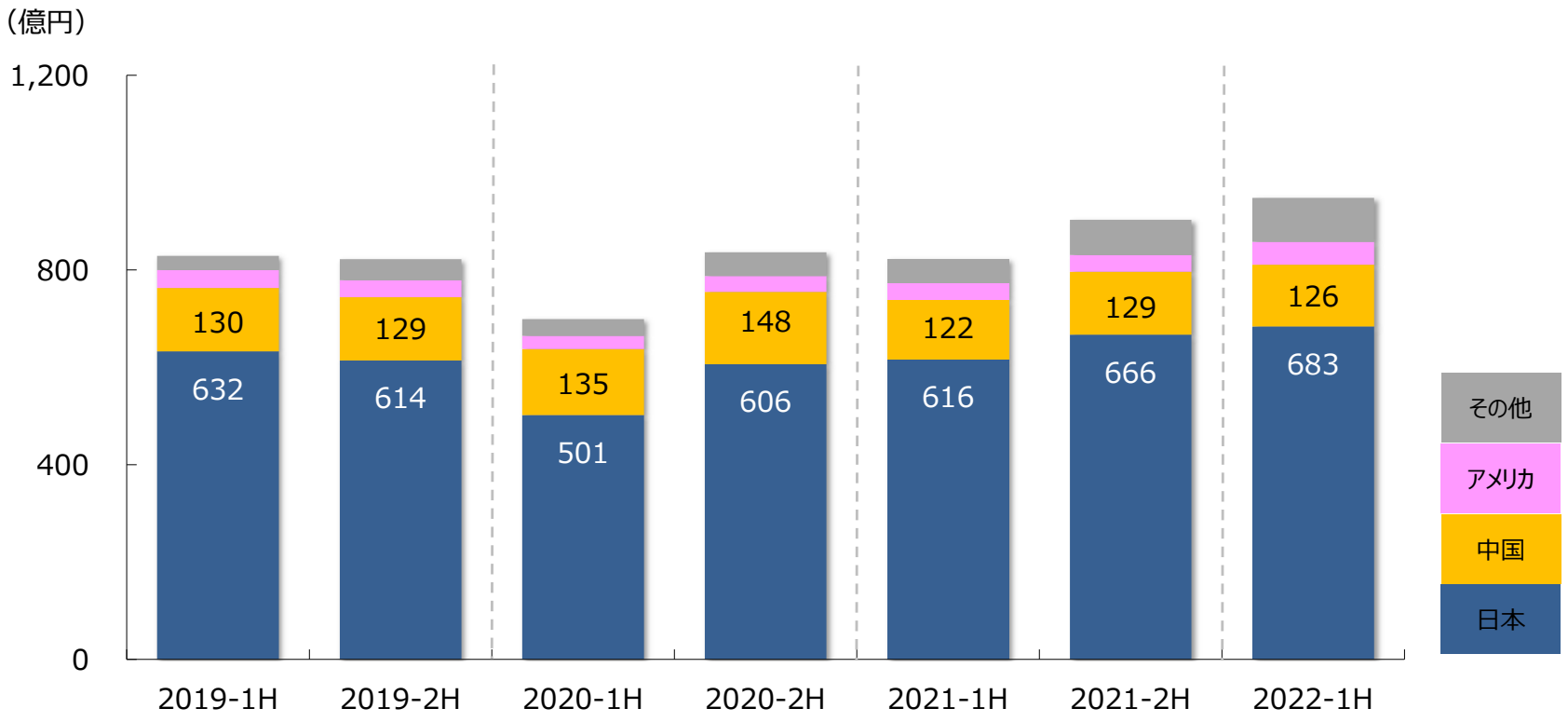
’20年3月期		’21年3月期		’22年3月期		’23年3月期	
1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H（予想）
▲7.6	▲8.2	▲7.0	▲6.7	▲7.3	▲9.3	▲7.7	▲9.0

＊従来各報告セグメントに配分しておりました新規事業に係る研究開発費を全社費用として計上し、
欄外に記載しております。

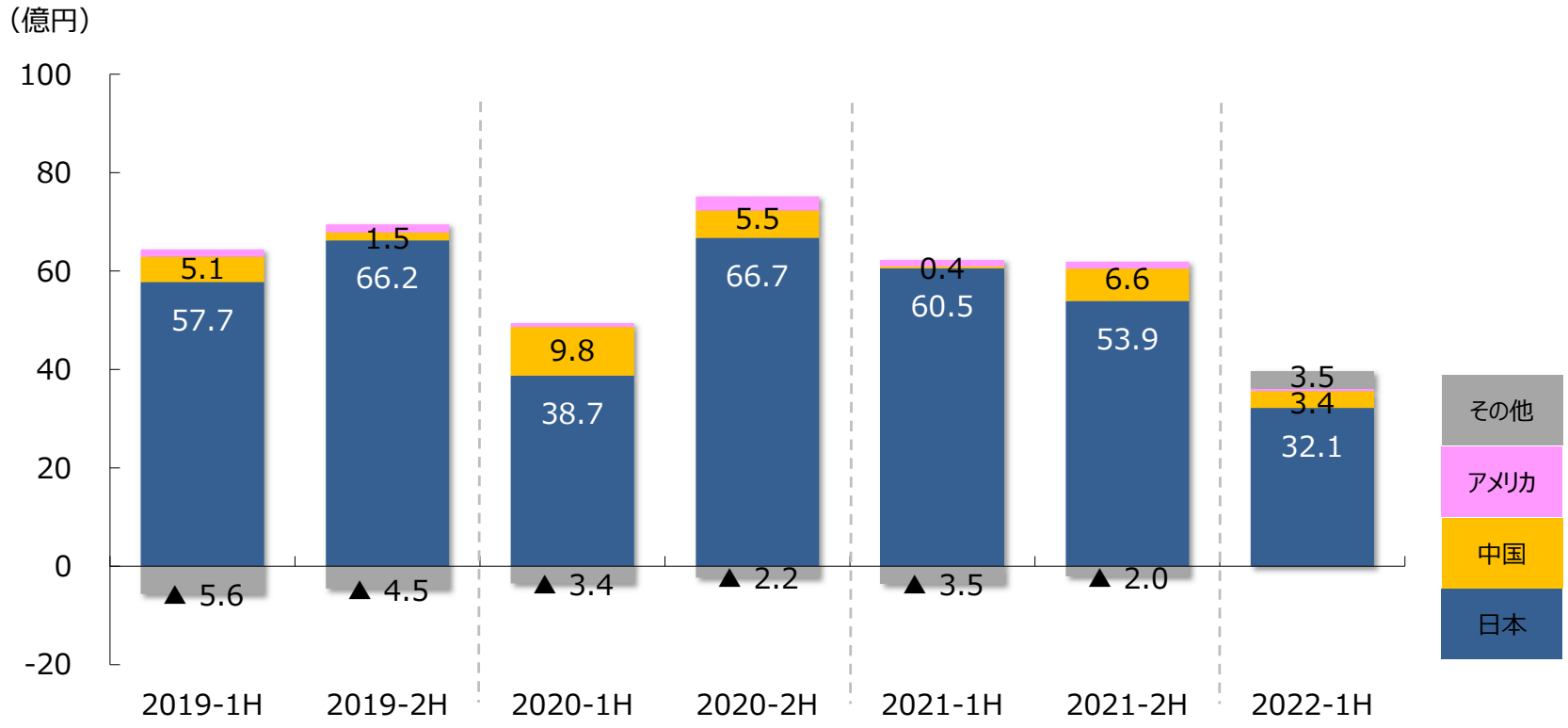
海外売上高の推移（半期）


為替（期中平均）（円 / $）
140
120
100
108.6
108.8
106.9
105.3
109.8
115.0
134.0
売上高（億円）
800
600
400
200
0
60
40
20
0
38.3
39.1
42.1
45.4
42.6
43.4
45.6
24.3
23.8
29.4
27.7
24.0
27.5
27.7
298
303
277
358
330
368
403
48
144
94
42
145
101
30
154
79
37
190
111
40
164
103
38
171
127
57
171
143
2019-1H
2019-2H
2020-1H
2020-2H
2021-1H
2021-2H
2022-1H
海外売上高比率（%）
海外生産高比率（%）
合計
その他
アメリカ
中国
アジア
（中国除く）

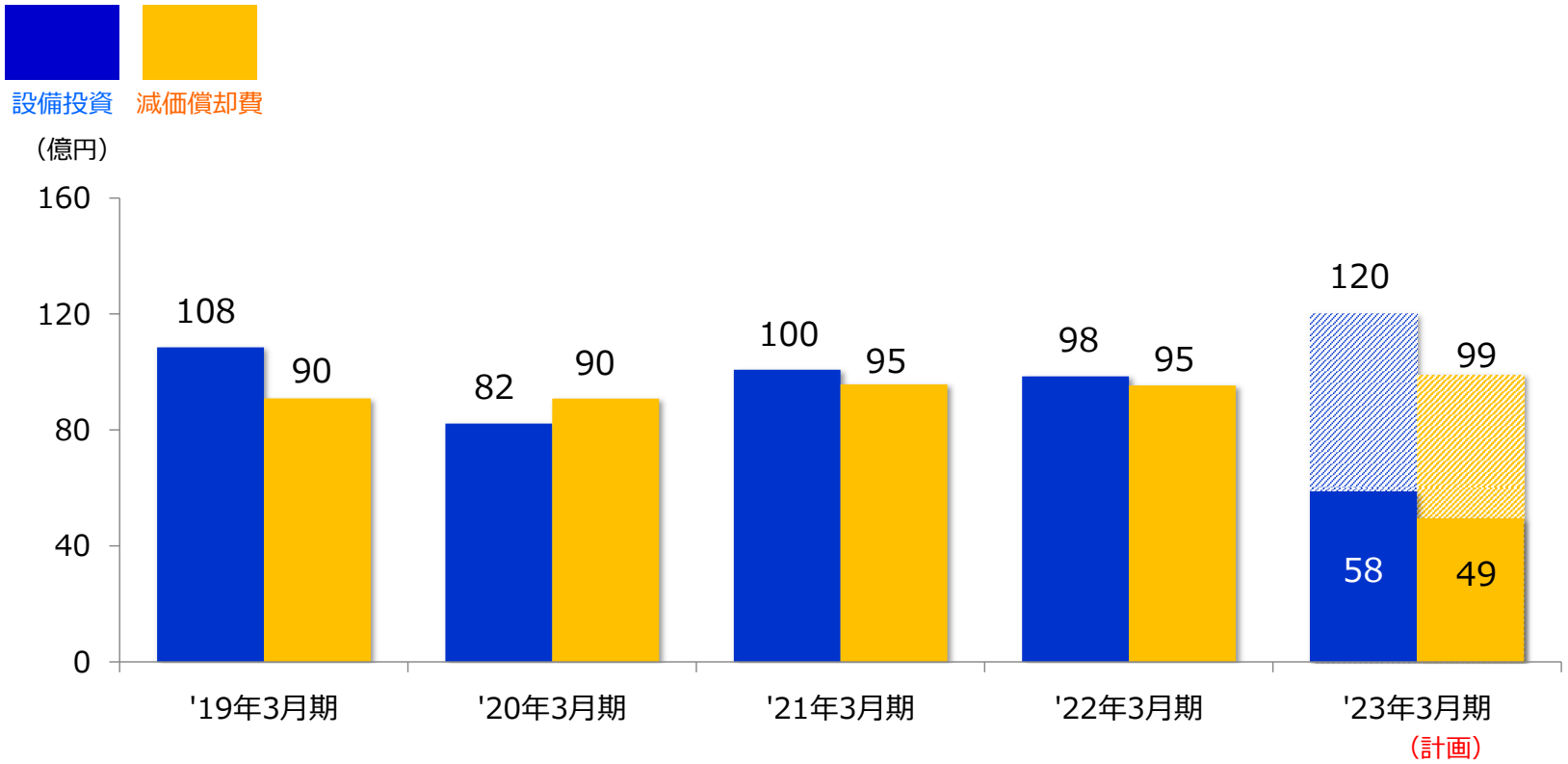
連結所在地別売上高の推移（単純合算）



連結所在地別営業利益の推移（単純合算）



設備投資と減価償却（連結）

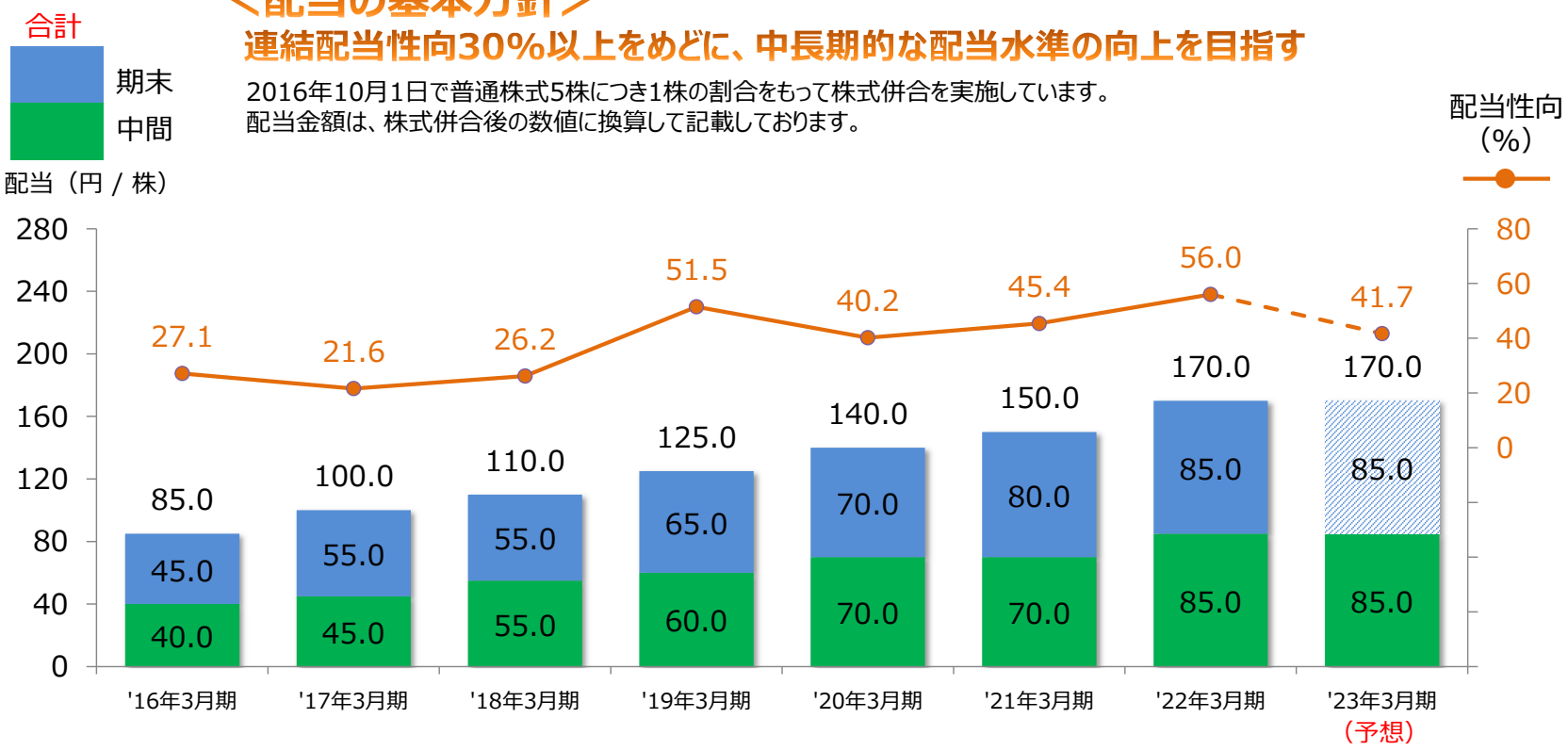


1株当たり配当と連結配当性向の推移

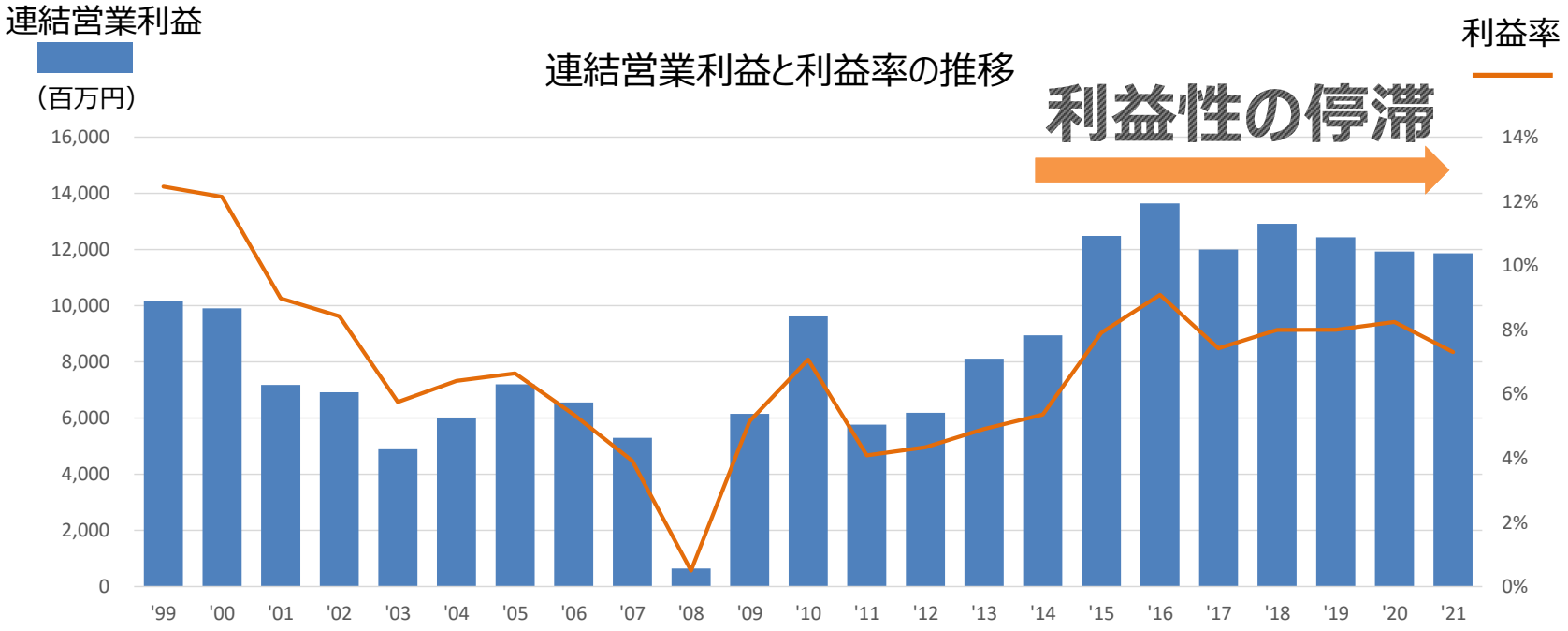
＜配当の基本方針＞

連結配当性向30%以上をめどに、中長期的な配当水準の向上を目指す

2016年10月1日で普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施しています。
配当金額は、株式併合後の数値に換算して記載しております。



当社の置かれた状況



直近５年、営業利益が伸び悩み、利益性改善が急務

200億円に向けた取り組み

2024年度の利益拡大基盤は、
ニッチで高付加価値製品である既存事業の利益拡大が中心

- 徹底的な無駄の排除
- 高付加価値製品の増産・拡販
- 低利益製品の利益性改善（品種統合、プロセス改善等）

中長期的な利益性改善施策を並行して実施

- 生産設備のリノベーション等により抜本的な生産体制改革
  ＊60億円/年を越える設備保守費用

キャッシュを生み出す企業体質へ徹底的に

マテリアリティ

サステナビリティ基本方針

三洋化成グループは、創業以来大切にしてきた社是「企業を通じてよりよい社会を建設しよう」に基づいて、ステークホルダーと連携しながら、経済的価値と社会的価値を共に向上させて、将来にわたって持続的な成長を目指します。

マテリアリティの特定

分類	マテリアリティ	どのように取り組むか？
環境 E 環境と調和した循環型社会を目指して、環境を支える	Interface Innovator[*1]としてカーボンニュートラルの達成 	界面制御技術を生かしたカーボンニュートラルへの貢献 ●新型電池への貢献　機能性薬剤の開発 ●次世代パワー半導体への貢献　GaO系半導体への機能付与 ●CO_2回収システムへの貢献　界面化学による新たなシステム開発 ●農業課題への貢献　ペプチド農業による環境負荷の低減 ●風力発電への貢献　風車ブレード用炭素繊維集束剤 ●自動車分野への貢献　潤滑油添加剤によるガソリン車の燃費向上 ●樹脂リサイクルへの貢献　PPリサイクル時の強度向上薬剤 ●石油由来原料の使用低減　天然由来原料の積極的活用
生命/生活 L 健康・安心に暮らせる社会を目指して、人とくらしを支える 独自分類	「はたらき」を化学して[*2]QOLを向上 	新たな技術を駆使したメディカル分野における価値創造 ●心疾患治療への貢献　非生物由来止血材による安全性の高い止血 ●臨床検査薬での貢献　短時間で測定可能な検査薬による患者の負荷の低減 ●難治性疾患治療への貢献　機能性たんぱく質による創傷治癒、膝関節症治癒 ●再生医療への挑戦　間葉系幹細胞の生産効率の向上 人の生活に密着した新たな価値創造 ●嗅覚の可視化による生活の質の向上　匂いセンサーの開発 ●人にやさしい製品の開発　天然由来原料を用いた化粧品薬剤等の開発

マテリアリティの特定

分類	マテリアリティ	どのように取り組むか？
社会 S 一人ひとりが輝く社会を目指して、多様性を支える	産業/文化/教育の価値創出を下支えしてイノベーションを創出 	「化学のちから」を生かし、化学分野の枠にとらわれない新たな分野への挑戦 ●新たなビジネスモデルである遊休化学品とニーズをつなぐマッチングプラットフォーム「UQ Chem」サービスの推進 ●様々な京都伝統産業の下支えのための技術貢献 ●異分野との協業・アライアンス、スタートアップへの出資の積極的推進 ●DX、MI（マテリアルズ・インフォマティクス）の推進 ●小中学校への化学の出張授業、京都大学との京都超SDGsコンソーシアム参加
	多様な価値観を認め合って人財育成と職場環境を向上 	多様性を重視した経営（DEI）　全社員がワクワクして取り組める風土へ ●女性活躍推進 ●LGBTQ理解促進 ●イクボス企業同盟への加盟 ●健康経営の推進 ●社内複業制度の導入 ●経営陣と従業員のコミュニケーションの充実：朝会（全社員への講話）、合宿（本部長との議論）、1on1 (部長との対話)、道場（経営補佐職への伝承）、サロン（中堅・若手との対話）

マテリアリティの特定

分類	マテリアリティ	どのように取り組むか？
ガバナンス G 社会から信頼される透明性のある経営を目指して	ガーディアン機能を強化してリスク管理を徹底	●生産と品質保証の独立体制による品質ガバナンスの強化 ●企業価値毀損の高いリスク（レピュテーションリスク）のマネジメント体制構築 ●法令順守体制の強化 ●安全教育センター活用による安全衛生体制の強化
	挑戦を恐れない透明性のある経営	●WakuWaku経営推進　全部署がプロフィット志向 ●取締役会の多様性　女性比率≧30%への引き上げ（現状22%） 独立社外取締役比率：取締役会≧1/3 ●取締役スキルマトリックスの開示 ●非財務情報の開示充実 ●株主・従業員等ステークホルダーとの対話の充実 ●サステナブル経営委員会の設置

「すべてのステークホルダーのワクワク」・「環境・社会的価値と経済価値をステークホルダーと共創」・「社員一人ひとりが価値の創出に貢献」を実現しながら、これらの課題に取り組む

経営TOPICS

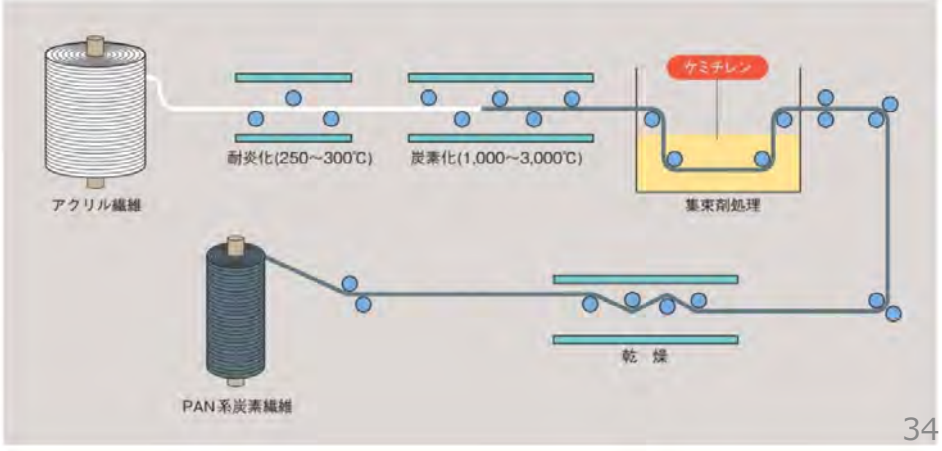
基盤事業の拡大

炭素繊維集束剤『ケミチレン』

炭素繊維製造工程で使用される。
近年、再生可能エネルギー需要の高まりから風力発電用に
炭素繊維は多く使用され、ケミチレンの需要も高まっている

投資金額約7億円、2024年5月稼働予定で、現在の生産能力から5割程度の能力増強

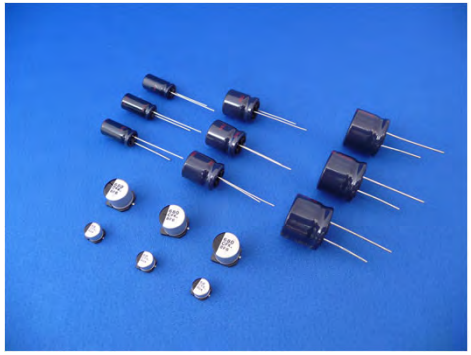
2030年には、現在の売上高を2倍程度まで引き上げる

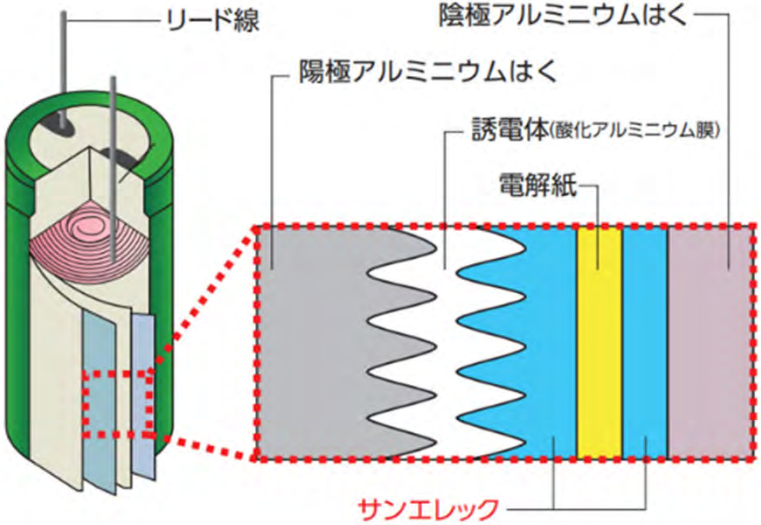


基盤事業の拡大

アルミ電解コンデンサ用電解液『サンエレック』

三洋化成独自開発したアミジン化合物を用いた電解液で、イオンの移動速度はそのままに、発生アルカリを中和し無害化。コンデンサ業界最大の課題であった液漏れを克服





自動車の電装化、EVの拡大等コンデンサ需要の急激な増加に対応するため、投資金額約4億円で、3割程度の能力増強を行う。2023年5月の稼働予定

基盤事業の拡大

新プラントの外観

永久帯電防止剤『ペレスタット』『ペレクトロン』

電子機器・精密部品の包装・搬送材料用途を中心とした需要増に加え、防爆用途などの用途拡大が進展
タイの関係会社サンヨーカセイ（タイランド）リミテッドでの新製造設備が稼働開始

総投資額：34億円
生産能力：1,500トン/年
（日本、タイの合計生産能力は4,700トン/年）

ニッチで高付加価値製品である既存事業の利益拡大へ

新規事業の動向（バイオ・メディカル事業）

『富士フイルム三洋化成ヘルスケア株式会社』が10月から体外診断用医薬品の製造を開始
（2022年6月設立、富士フイルム51%、三洋化成49%）

自動化学発光酵素免疫分析装置
「Accuraseed®」の専用試薬を製造

富士フイルム和光純薬、三洋化成が有する設備・人材・製造ノウハウを組み合わせた高い生産性の実現、一体組織運営の下での意思決定のさらなるスピードアップを図る

－富士フイルム三洋化成ヘルスケアの概要－

所在地：三重県三重郡菰野町
代表者：岡田　美広
資本金：1億円（出資比率　富士フイルム51%、三洋化成49%）
設立日：2022年6月17日

新規事業の動向（電池関連事業）

全樹脂電池向け被覆活物質

APB株式会社にて運営・事業化を目指している全樹脂電池

APB

全樹脂電池事業に関する三洋化成の役割

APB株式会社：全樹脂電池の事業運営、量産化等の経営

三洋化成：キーマテリアル（被覆活物質）の供給に専念し、性能強化に貢献

新規事業の動向（電池関連事業）

三洋化成は、電池関連分野を成長分野と位置付け注力

界面制御技術をコアテクノロジーとした新素材開発を多角的に検討

一例）リチウムイオン電池用有機正極材料の開発

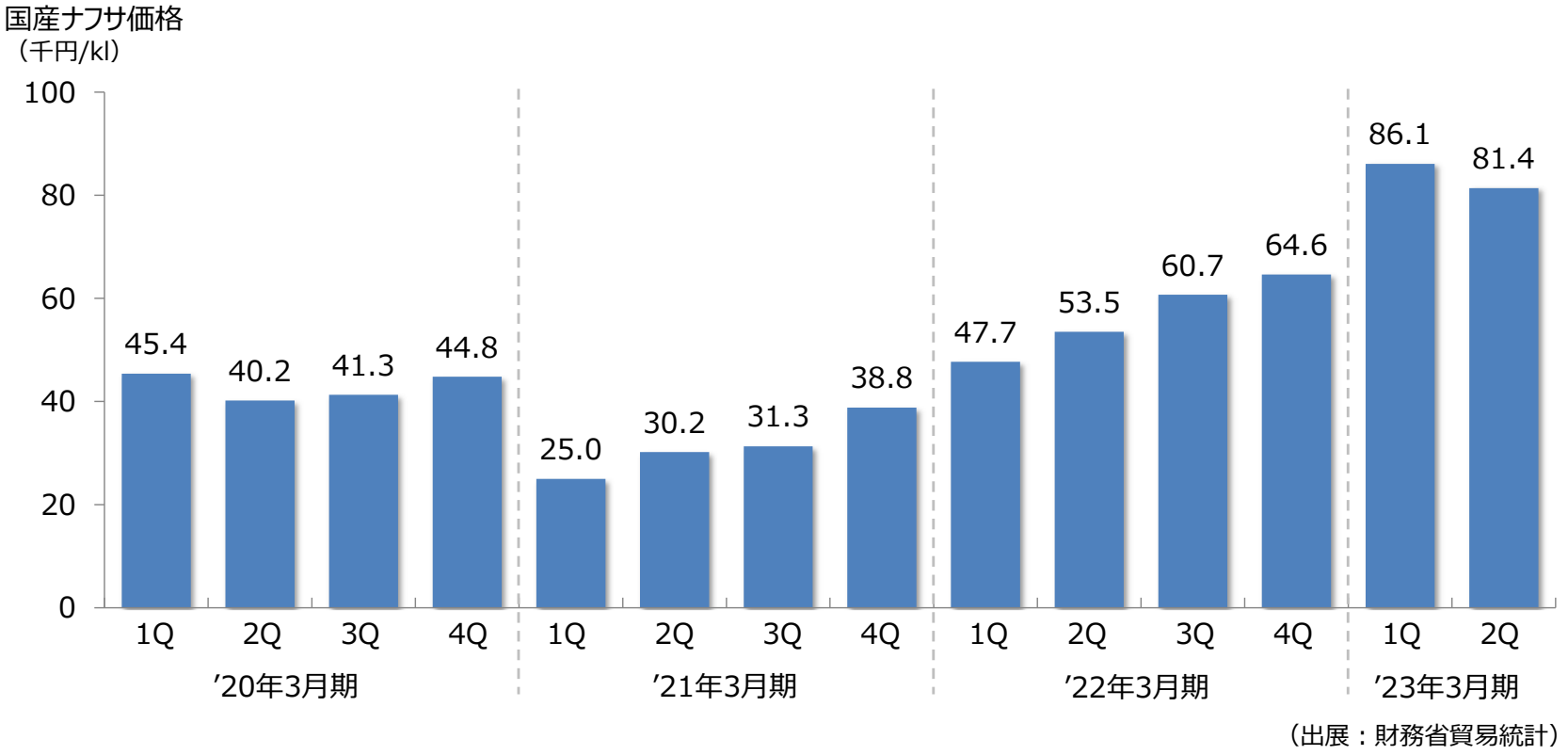
他社（社名非公開）との協業で、正極部材を無機物から有機物にすることで、さらなる軽量化を図る

コアテクノロジーが活かせる分野への“選択と集中”による経営資源の投下による利益性向上へ

Sanyo Chemical

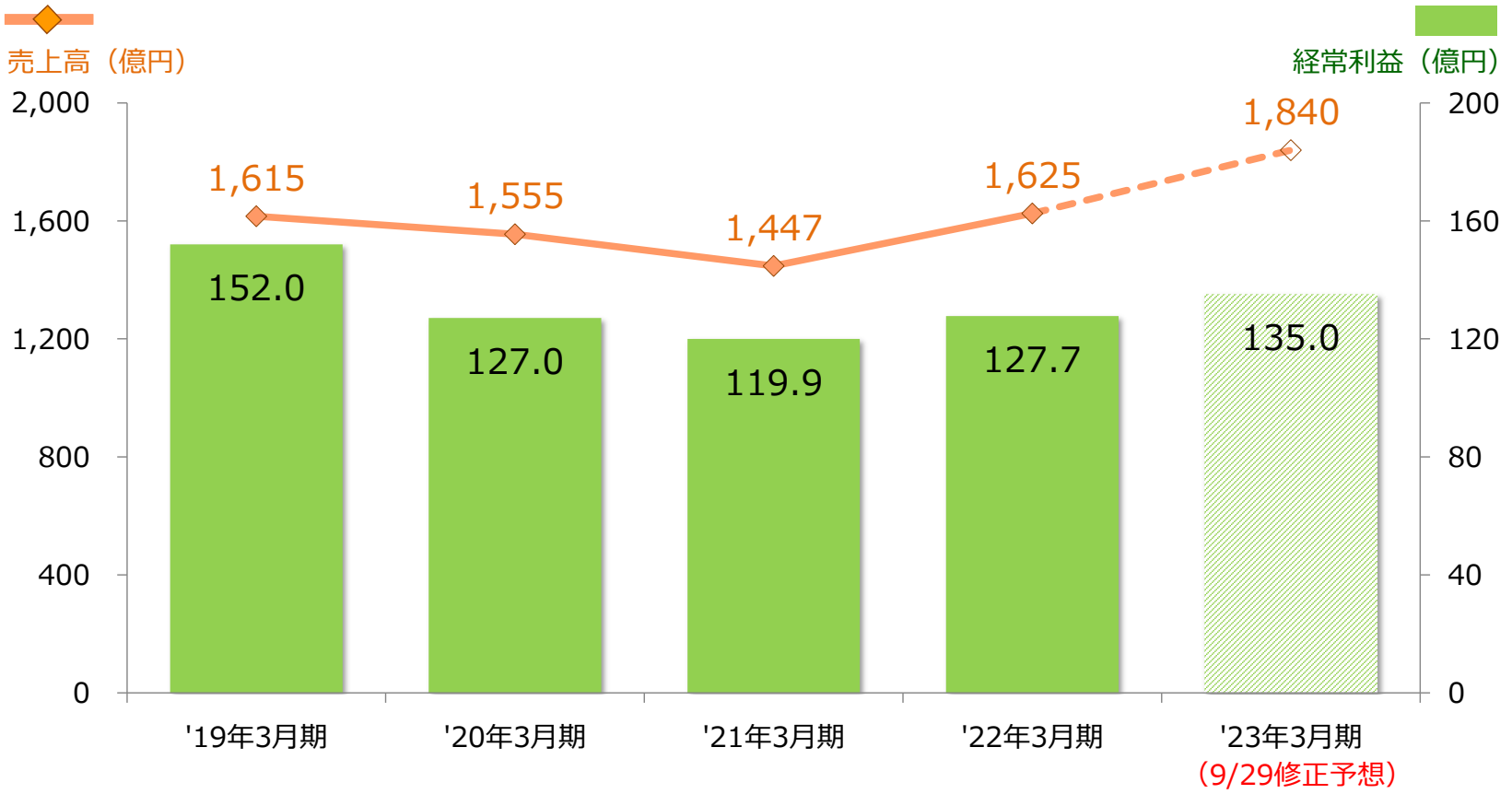
参考資料

国産ナフサ価格の推移

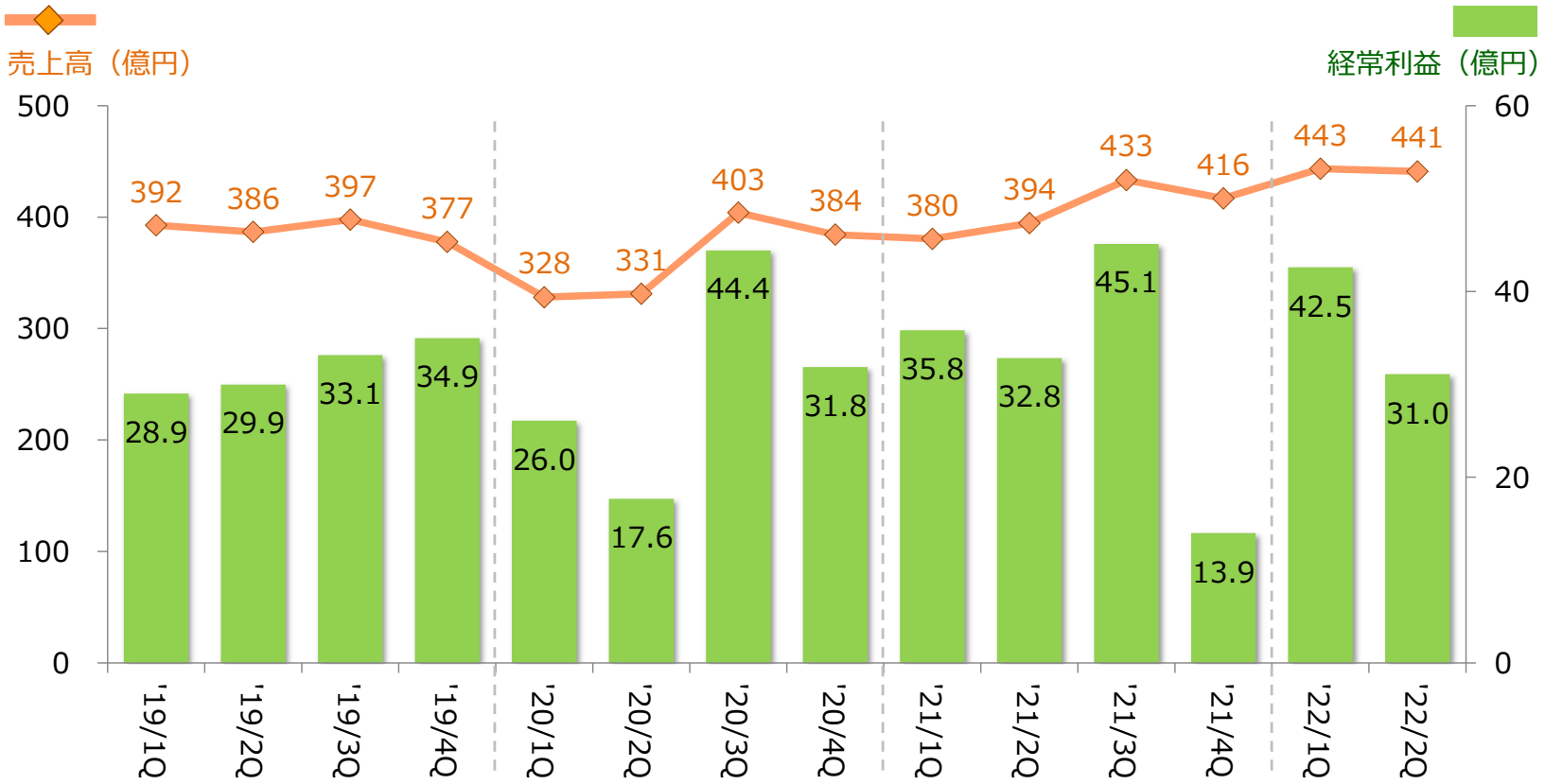


（出展：財務省貿易統計）

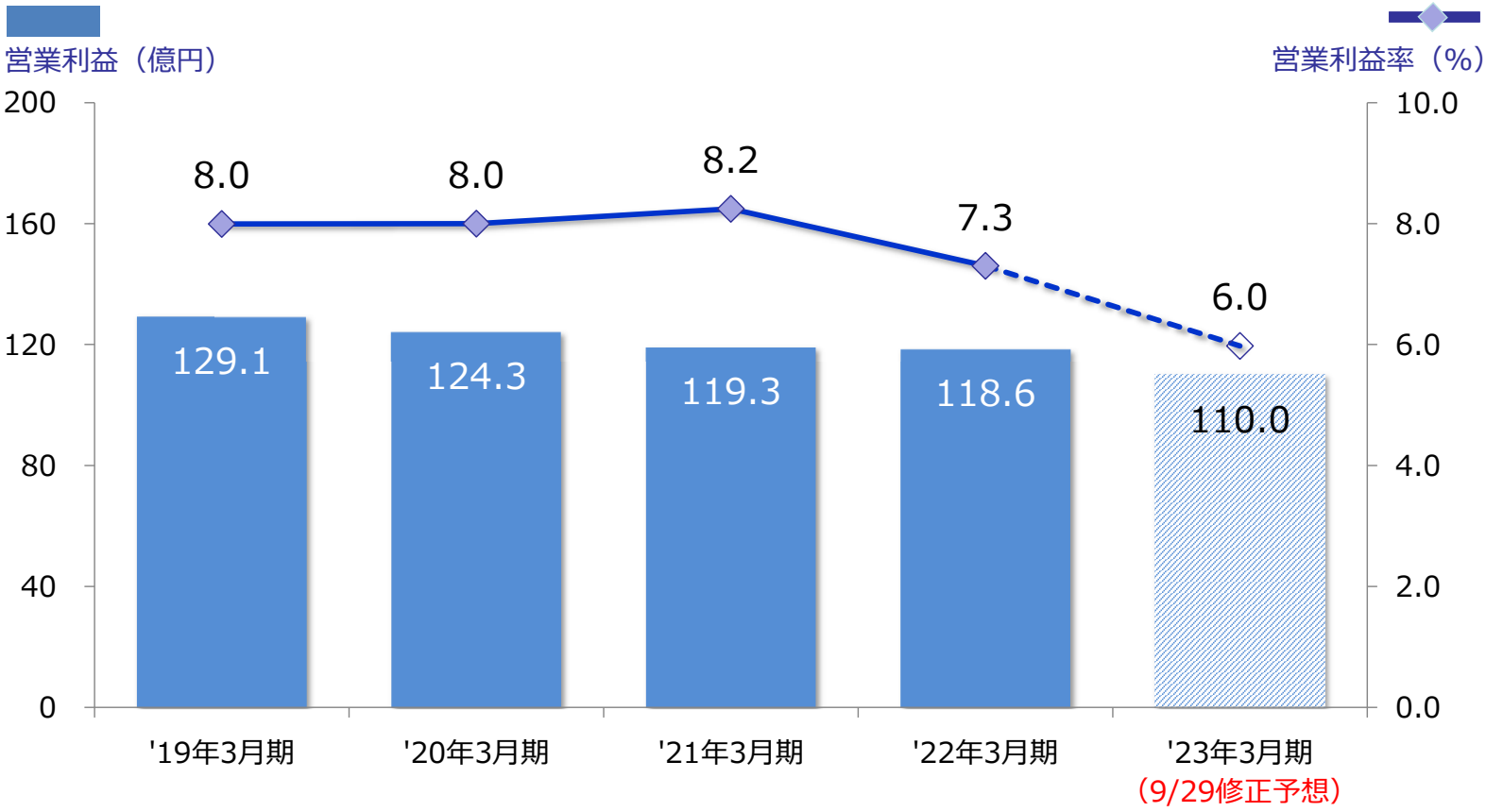
連結業績の推移


売上高（億円）
経常利益（億円）
2,000
1,600
1,200
800
400
0
200
160
120
80
40
0
1,615
1,555
1,447
1,625
1,840
152.0
127.0
119.9
127.7
135.0
'19年3月期
'20年3月期
'21年3月期
'22年3月期
'23年3月期
(9/29修正予想)

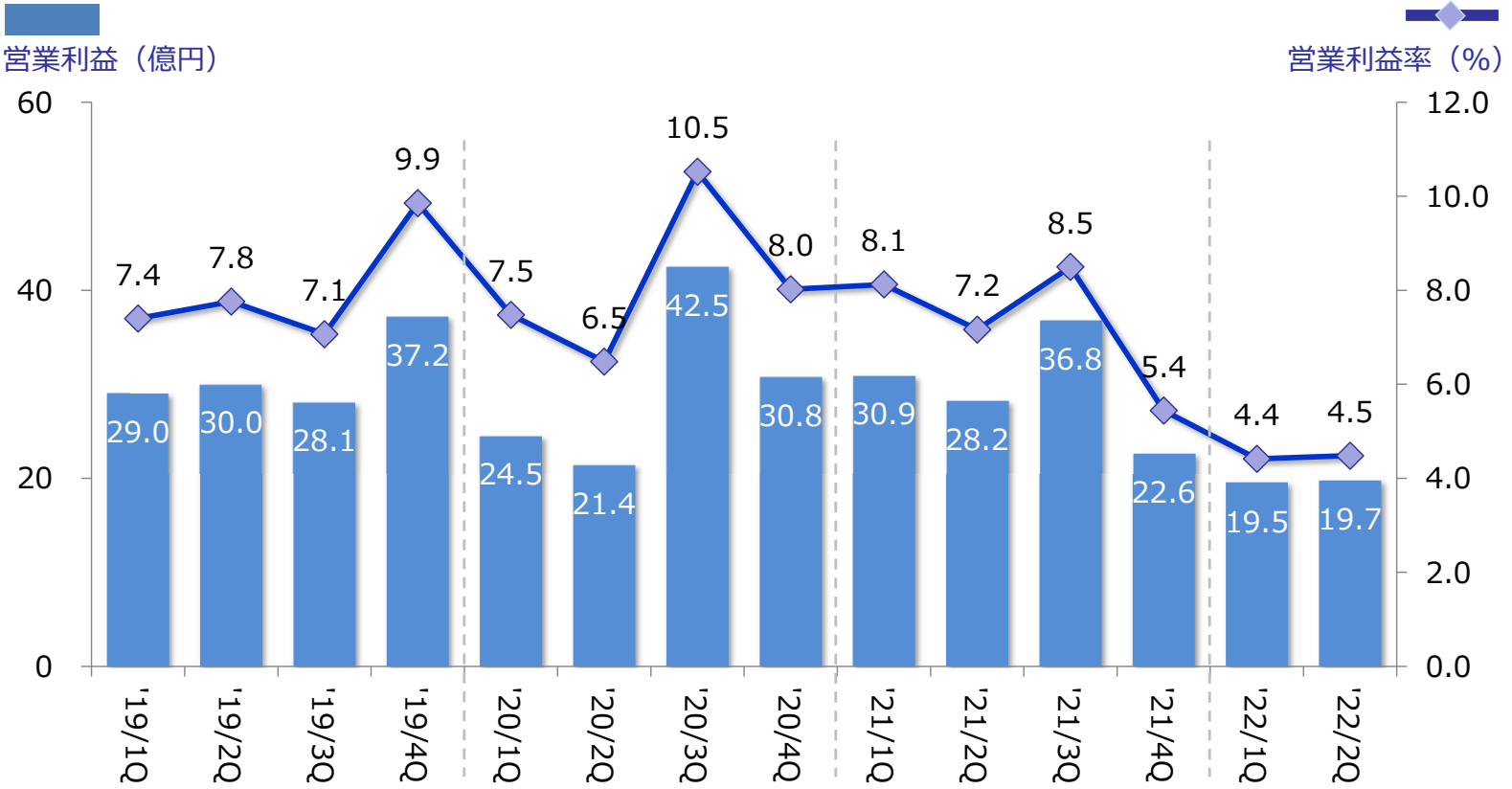
連結業績の推移（四半期）


売上高（億円）
経常利益（億円）
500
400
300
200
100
0
60
40
20
0
392
386
397
377
328
331
403
384
380
394
433
416
443
441
28.9
29.9
33.1
34.9
26.0
17.6
44.4
31.8
35.8
32.8
45.1
13.9
42.5
31.0
'19/1Q
'19/2Q
'19/3Q
'19/4Q
'20/1Q
'20/2Q
'20/3Q
'20/4Q
'21/1Q
'21/2Q
'21/3Q
'21/4Q
'22/1Q
'22/2Q

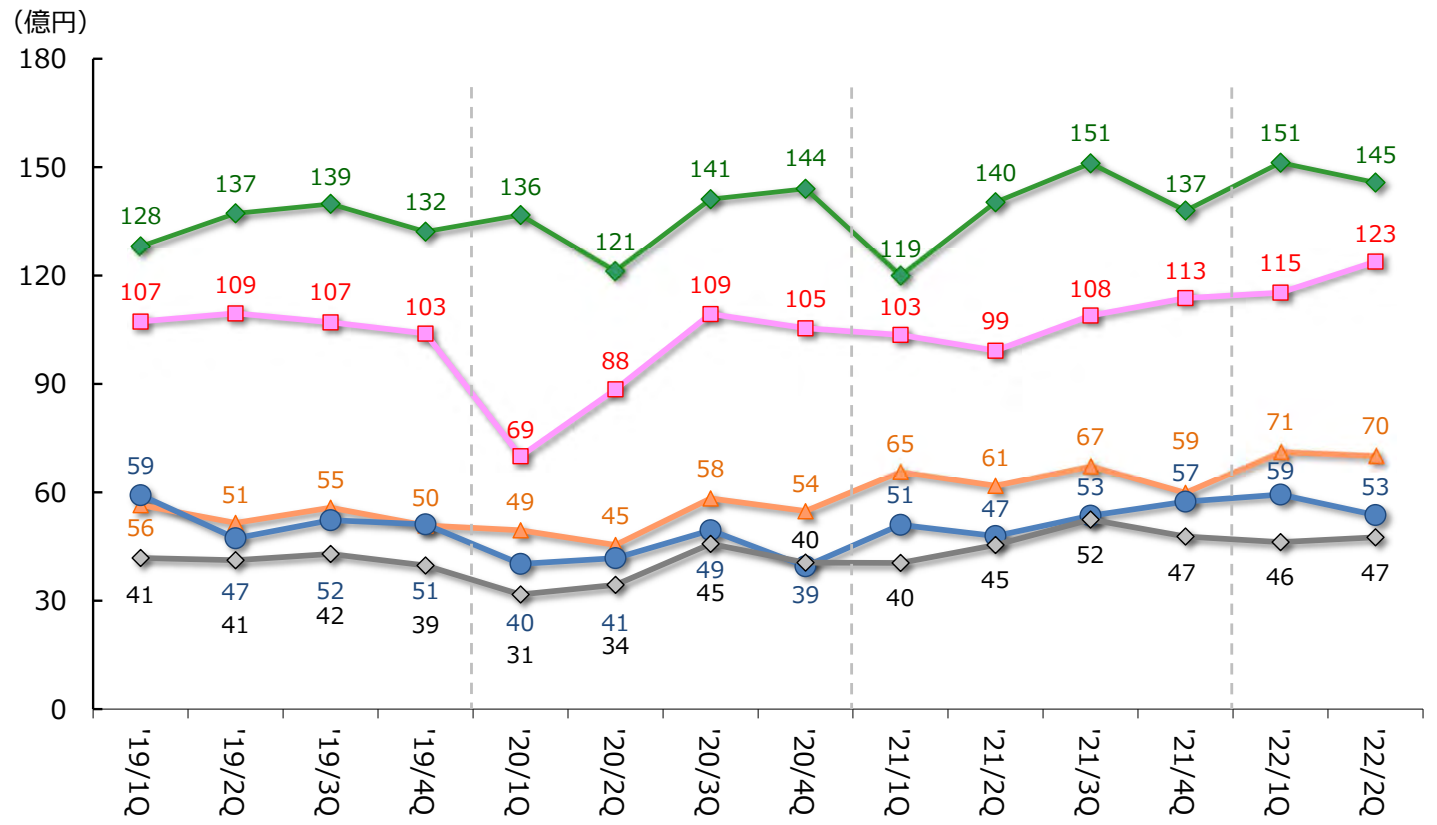
連結営業利益（同率）の推移



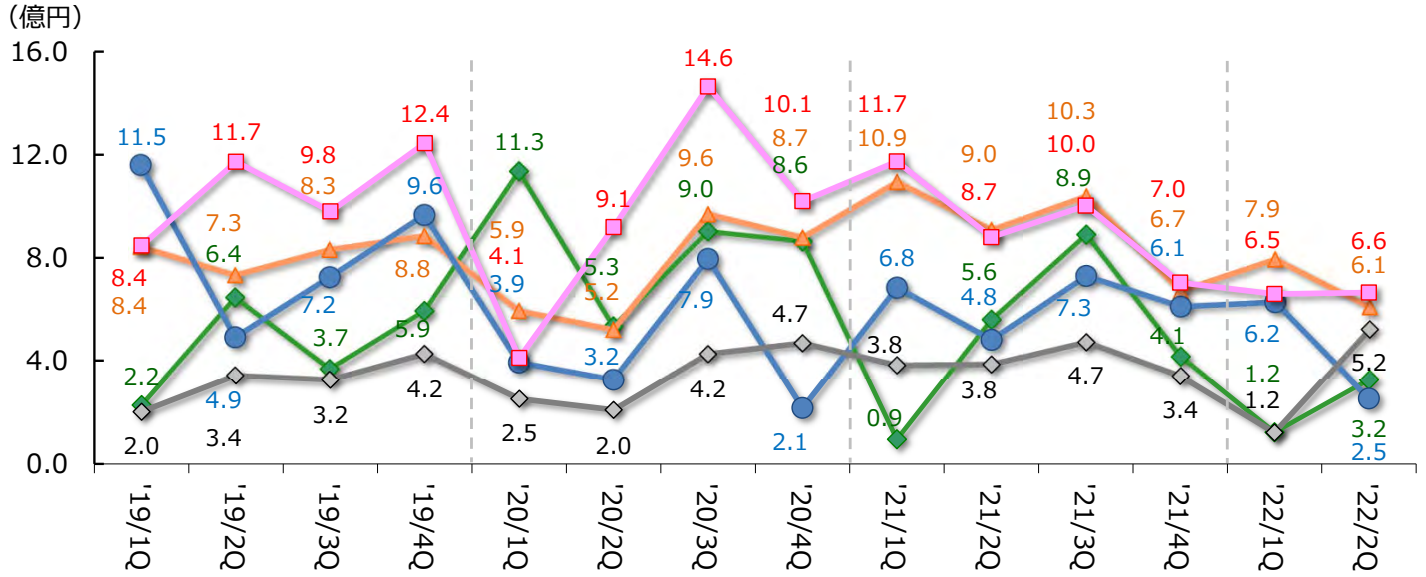
連結営業利益（同率）の推移（四半期）



連結産業分野別売上高の推移（四半期）



連結産業分野別営業利益の推移（四半期）

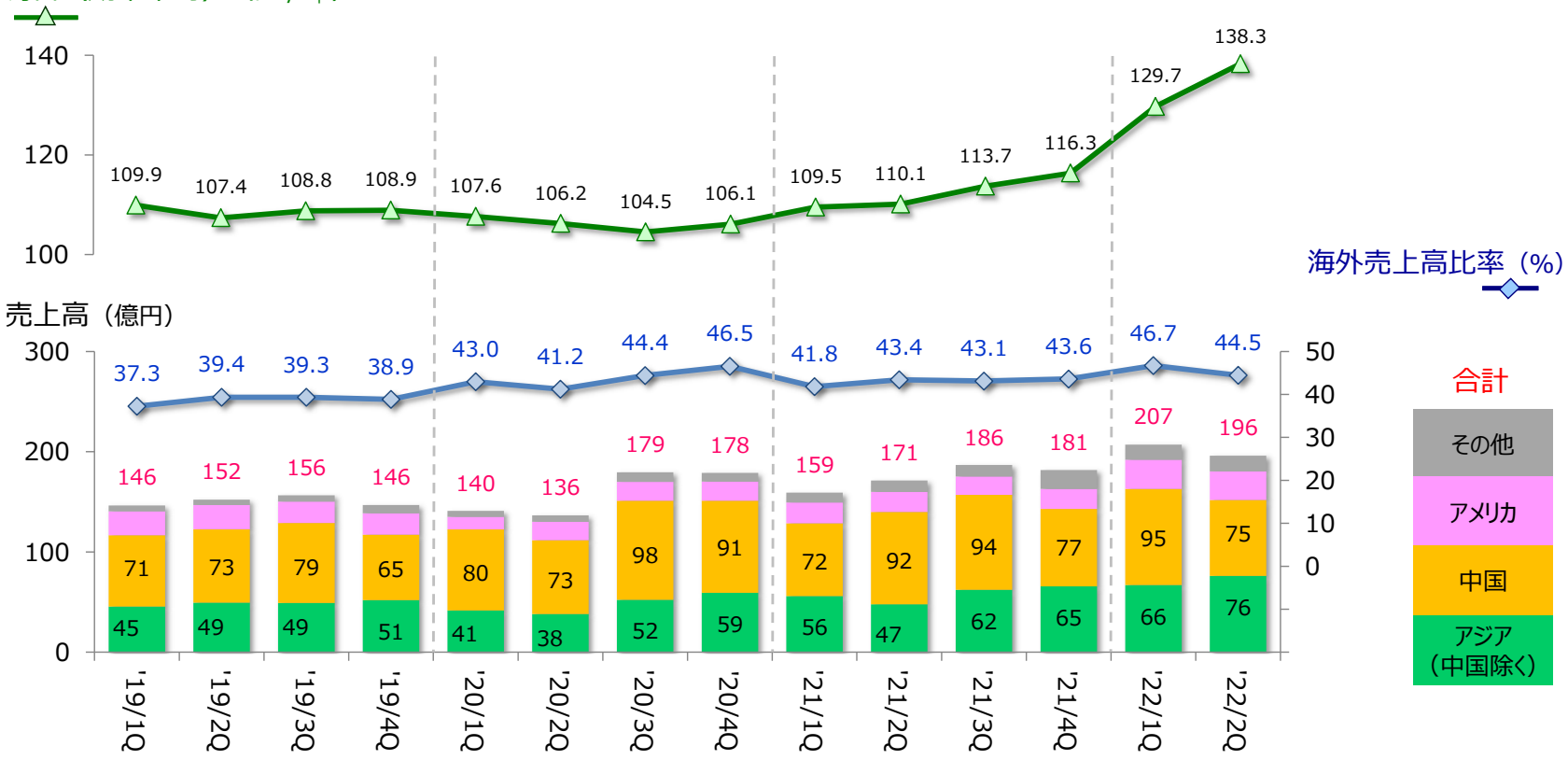


新規事業に係る研究開発費（億円）＊

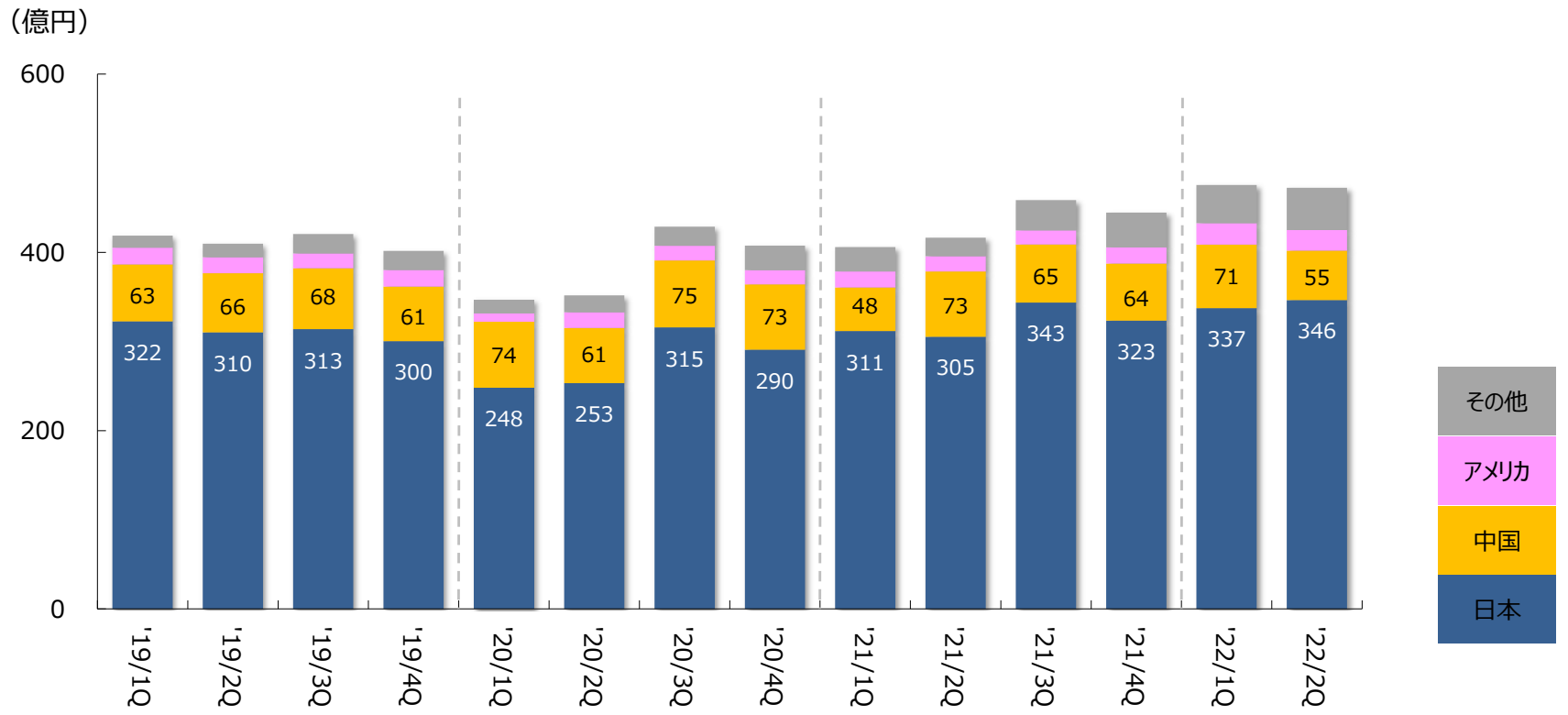
'20年3月期				'21年3月期				'22年3月期				'23年3月期	
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
▲3.7	▲3.9	▲4.2	▲3.9	▲3.3	▲3.6	▲3.1	▲3.6	▲3.4	▲3.9	▲4.5	▲4.8	▲3.7	▲4.0

＊従来各報告セグメントに配分しておりました新規事業に係る研究開発費を全社費用として計上し、
欄外に記載しております。

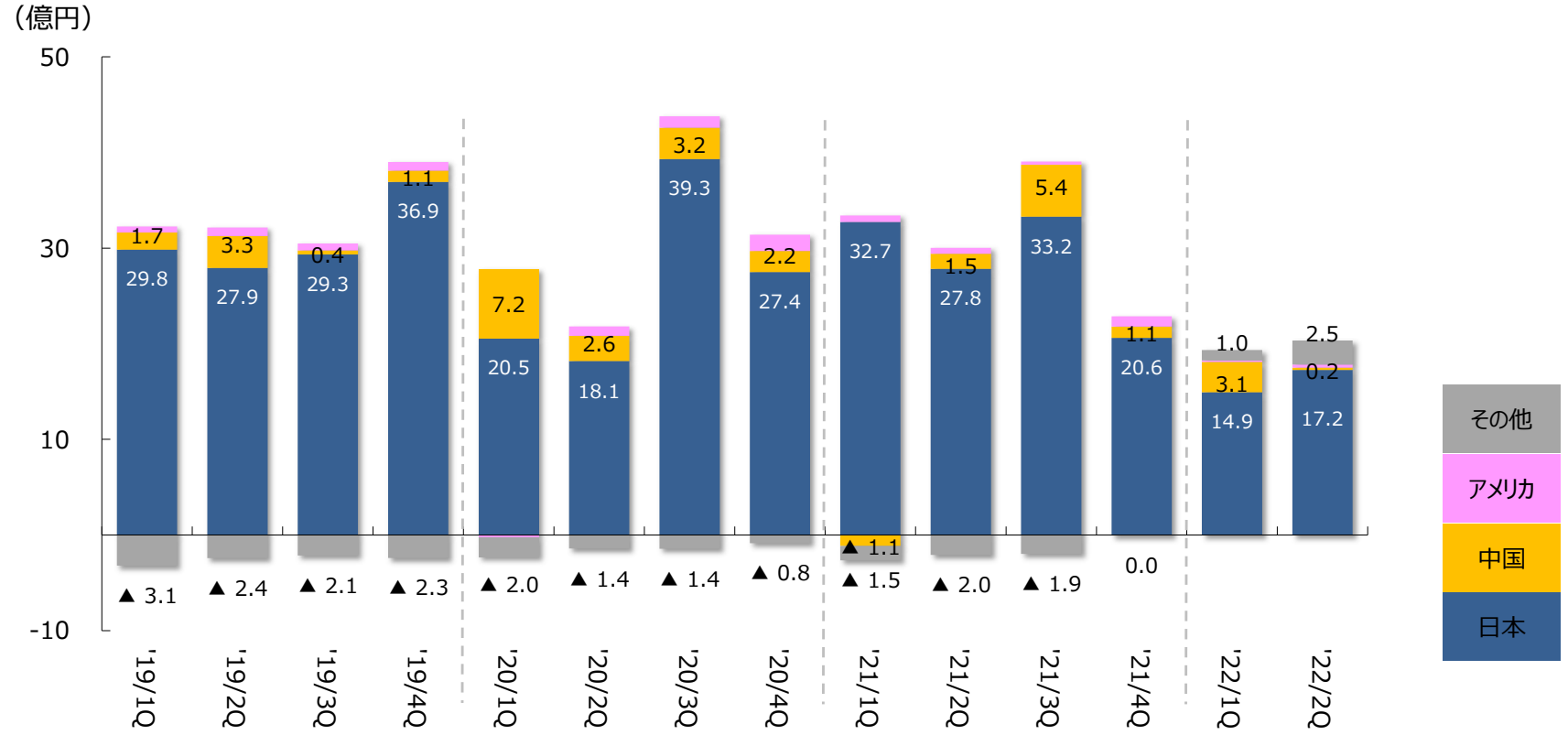
海外売上高の推移（四半期）



連結所在地別売上高の推移（単純合算）



連結所在地別営業利益の推移（単純合算）



国内連結子会社

会社名	略号	議決権所有割合		事業内容
SDPグローバル㈱	SDP	三洋化成工業㈱	100%	高吸水性樹脂の製造販売
サンノプコ㈱	SNL	三洋化成工業㈱	100%	紙・パルプ薬剤、塗料用薬剤、 各種工業用薬剤等の製造販売
サンケミカル㈱	SCC	三洋化成工業㈱ ENEOS㈱	50% 50%	ポリウレタンフォーム用原料等の製造
サンアプロ㈱	SA	三洋化成工業㈱ ｴﾎﾞﾆｯｸ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ B.V.	50% 50%	エポキシ樹脂硬化促進剤、 ウレタン化反応触媒等の製造販売
三洋化成ロジスティクス㈱	三洋ロジ	三洋化成工業㈱	100%	運送業・倉庫業

海外連結子会社

会社名	所在国	略号	議決権所有割合		事業内容
三洋化成精細化学品（南通）有限公司	中国	SKN	三洋化成工業㈱	100%	界面活性剤、ウレタン樹脂等の製造
三大雅精細化学品（南通）有限公司	中国	SDN	SDPグローバル㈱	100%	高吸水性樹脂の製造販売
三洋化成（上海）貿易有限公司	中国	SCST	三洋化成工業㈱	100%	界面活性剤、ウレタン樹脂等の販売
Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.	タイ	SKT	三洋化成工業㈱ VIV,豊田通商㈱ほか	79% 21%	界面活性剤、ウレタン樹脂等の製造販売
Sanyo Chemical America Incorporated	米国	SCA	三洋化成工業㈱	100%	米国子会社の統括会社、潤滑油添加剤、ウレタンビーズ等の販売
Sanyo Chemical Texas Industries, LLC	米国	SCTI	Sanyo Chemical America Incorporated	100%	ウレタンビーズの製造
SDP GLOBAL (MALAYSIA) SDN.BHD.	マレーシア	SDPM	SDPグローバル㈱	100%	高吸水性樹脂の製造販売
韓国三洋化成株式会社	韓国	SKK	三洋化成工業㈱	100%	潤滑油添加剤、界面活性剤等の販売

持分法適用会社

会社名	略号	議決権所有割合		事業内容
㈱サン・ペトロケミカル	SPCC	三洋化成工業㈱ ENEOS㈱	50% 50%	合成ゴム原料の製造
Sunrise Chemical LLC ［米国］	SRC	Sanyo Chemical America Incorporated ﾆｯﾎﾟﾝ･ｹﾐｶﾙ･ﾃｷｻｽ	50% 50%	合成ゴム原料の製造
APB㈱	APB	三洋化成工業㈱ 他	44% 56%	全樹脂電池の研究・開発、 製造販売
塩浜ケミカル倉庫㈱	塩ケミ	三洋化成工業㈱ ENEOS㈱	50% 50%	倉庫業

他1社